

# 千川中学校だより

5月号 平成29年5月9日(火)

## 「人権」って何だろう

～いじめ問題から考える～

千川中学校長 紅床 直也

義務教育学校は生徒が社会に出る前の基礎・基本を身に付ける場所です。東京都教育委員会の基本方針は4つあるのですが、その第1が「人権尊重の精神」と「社会貢献の精神」の育成となっています。人権が守られない環境に健全な教育活動などあり得ません。では、そもそも「人権」の意味とは何なのでしょう。辞書で引いてみると、「人間が人として本来持っている権利」とありますが、抽象的すぎて良く分かりません。

一般的に人権とは、「すべての人が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」を意味します。私は小学校の校長もやったことがあるので、入学したての子どもたちには、「命を大切にすること」「みんなと仲良くすること」（人権を守ることにつながる）と易しい言葉で、繰り返し教えていました。いじめは、人間として絶対に許されない明白な人権侵害だからです。

東日本大震災で被災して小学校2年生の時に横浜市に避難してきた男子生徒が、小学校時代に言葉の暴力による「いじめ」を受けたばかりか、その後、「多額の賠償金があるだろう」という誤解や偏見を背景に多額の金銭を要求され、学校に行けなくなった。…こんなニュースが報道されたのは昨年11月のことです。平成23年（2011年）の大震災から6年経っても、未だにこうしたことが行われていたというのは、学校の、家庭の、大人社会の責任に他なりません。

今、学校教育は大きな転換期にあります。本校が取り組んでいる「主体的・対話的で深い学び」の実現もそうなのですが、古い価値観を打破して新しい理想を追求する営みが求められます。ここ1、2年の大学や高校の入試問題を精査すれば、これまでの暗記中心の学習だけでは太刀打ちできないのは明白です。いち早く、民間の教育機関ではそれに応じた対策が実施されています。

毎年3月、東京都教育委員会から教員に1冊ずつ配布される冊子に、「人権教育プログラム」（学校教育編）があります。一人一冊、それも毎年ですから、莫大や経費を使っています。その中には、学校教育で扱う人権課題が具体的に掲載されています。その中の人権課題「子供」に、いじめ問題や教師による体罰の禁止があります。

何度も何度も、「いじめ」や「体罰」の報道がなされてきているのに、何人もの子供たちが助けを求めているのに、未だに「自立した大人になるためには多少のいじめは必要悪だ」とか「少し厳しいくらいの対応（体罰）は許される」といった誤った考えの大人たちがいます。意識下で蠢いているその感情こそが、いじめや体罰を助長します。

中学校には、12歳～15歳の生徒がいます。重篤な罪を犯した14歳以上の生徒は刑法によって罰せられます。現在では、概ね12歳以上なら少年院送致もあり得ます。こうした正しい知識を持たないまま、ただ何となくとか、単純に面白いからとかいう理由で、無意識にいじめ行為をしていることが、その子供の人生に重大な影を落としてしまうこともありえるのです。

冗談半分の悪口のつもりでも、軽い悪ふざけのつもりでも、それを受けた相手にとっては、人権を無視される、命を蹂躪される行為になり得ます。平成25年に公布・施行された「いじめ防止対策推進法」では、いじめの定義を、「当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの」としています。家庭での「躰」においても、幼少期からの「保育」「教育」においても、「相手の立場になって考えよう」と繰り返し言われてきたはずですが、これが実生活の場で態度・行動になって表れないとすれば、教員を含めた我々大人は大いに反省しなければなりません。

平成30年度から小学校で、平成31年度から中学校で、道徳の時間が教科化され、評価を伴った「特別の教科 道徳」となります。その背景には、「いじめゼロ」が未だに達成されていないことがあります。「道徳の時間」を教科として教えなければならない現実の前に、教員も親も地域の大人も、今まで以上に真剣に「人権」を考えなければならないと思います。

# 創立70周年記念式典に向けて

本校は、昭和22年4月に新制中学校として設立して、今年度で71年目を迎えます。1万7千人を超える卒業生を出し、校舎の改築や増築を重ね、現在に至っています。昨年度から記念行事の準備に取り組んでいます。また、同窓会を始め、地域の方々にも多大なご協力いただいております。70周年の取組の一環として、看板を作成しました。（右の写真）この看板は、この3月に卒業した3年生をはじめ、当時の1・2年生が力を合わせ作成したものです。現在は、校舎周囲の柵に取り付けています。式典は、11月25日（土）に行われます。特に今年度は、諸先輩が築き上げた千川中学校の歴史と伝統の重みをあらためて感じ、本校がますます地域に愛され、発展を続ける学校であるために、日々の教育活動に取り組んで参ります。



## 千川中学校スタンダード

学習は、社会に出て、他者と協働し、生き抜くために必要な知識や技能を身につけるために行います。そのためには、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を取り入れていきます。

### 【千川中学校授業の流れ（千川中学校スタンダード）】

#### 1 学習のめあて

この授業では、何を学習するのかを見通しをもって取り組むために  
その時間の目標や課題を理解する。→「今日はこんな勉強をするのか！できるのか！」

#### 2 自力解決

自分の考えや意見を言葉として自信をもって表現するために  
個人でじっくり考え自分の考えや意見をもつ。→「こう考えればよいのかな？」  
自分の意見や考えを積極的に発表する。→「こう考えたんだけどどう思う？」

#### 3 集団解決

友達の考えを取り入れ、自分の考えを広げたり、深めたりするために  
友達と協力して課題やめあてに取り組む。→「どうしてそんなこと思いついたの？」  
友達の意見を聞いたり自分の意見を伝えたりしながら、みんなで課題を解決する。  
→「どう考えればよいのかがわかった！いろいろな考え方があるんだ！考えを認めてもらって  
自信がついた！」

#### 4 振り返り

今日の授業で何を学習したのか、それにどんな価値があるのかを実感し身につけるために  
その時間に勉強したことを確認して、自分の中で整理する。  
→「意味ややりかたがよくわかった！こんなこととつながっているんだ！次の学習は何かな？」

**授業で自信をつけよう！**

### 生徒の活躍

＜豊島区中学校春季大会＞

○男子バスケットボール部

優勝 優秀選手賞 ＊＊＊＊＊（3年）

第4ブロック大会出場 ベスト8

○卓球部

男子団体 第3位

男子シングルス 第3位 ＊＊＊＊＊（2年）

○バドミントン部

個人戦 ダブルス 第3位 ＊＊＊＊＊・＊＊＊＊（3年）

団体戦 男子 第2位

○庁舎跡地エリア愛称

優秀賞 「豊島未来シティ」 ＊＊＊＊＊（1年）